

論文要旨

氏名 山本 智子

1. 論文題目

チーム医療の成熟過程に関する研究－褥瘡対策検討チームの事例研究より－

2. 論文要旨

1) 研究の背景

チーム医療とは、厚生労働省（2010）によると「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義されている。

そして、「医療安全対策チーム」、「栄養管理チーム」、「褥瘡対策チーム」など、多数のチームが病院組織内に設置され、活動が行われている。

このような現況について、山本（2014）は、2009年に岡山県下の病院のチーム医療を対象とした調査を行い、多職種のメンバーからなるチームが、メンバーの意識・行動に変化を起こし、チームを成長させ、それが病院組織全体の変化を生じさせていることを報告している。しかし、医療チームが成長しながら変化する過程や、さらには、それを可視化、測定することには至らなかった。

一方、チームの形成過程モデルとして、これまでにタックマン・モデル（Tuckman model）が作成され、また、組織の成熟度を測定する指標として、組織成熟度モデル（Capability Maturity Model Integration, CMMI）が開発されている。

そこで、医療チームの形成・成熟過程を、タックマン・モデルおよび組織成熟度モデル（CMMI）を援用して測定し、可視化できないであろうかということが、本研究の背景である。

2) 研究の目的

本研究では、医療チームの成熟の程度を、タックマン・モデルおよび組織成熟度モデル（CMMI）を援用して測定し、可視化することを目的とする。

測定し、可視化が可能になれば、医療チームを客観的・定量的に測定し評価することが可能になる。その結果、医療チームの成長をコントロール・改善することが可能になる。組織成熟度モデル（CMMI）の医療分野での適用可能性を実際の医療チームにおいて組織成熟度を追跡し検証することは、チーム医療におけるチーム育成の改善において、実践的にも、理論的にも意義があると考えられる。

3) 研究方法

本研究の方法は、事例研究である。具体的には、A病院の褥瘡対策検討チームの立ち上げから成熟度の高いチームに至るまでの12年間を追跡し、その間の成熟過程を、組織成熟度モデル（CMMI）の成熟度測定尺度とタックマン・モデルのチーム育成の5段階分類を援用して測定し、分析する。

本研究のデータ収集方法は、①病院の内部記録等に基づく書類の調査、②チームのメンバーおよびメ

ンバー以外の病院職員を対象としたインタビュー調査、③カンファレンスおよび委員会の観察調査（非参与観察法）である。

4) 研究の結果

A病院の議事録を詳細に検討した結果、褥瘡対策検討チームには次のような成熟過程が見られた。

第一に、A 病院の褥瘡対策検討チームの立ち上げから 12 年間で、測定して分析した結果、経時的に Level-1 から Level-4 までの成熟度が確認できた。

第二に、A 病院の褥瘡対策検討チームの成長過程において、タックマン・モデルにおける形成期、騒乱期、規範期、実行期が確認できた。また、騒乱期は、チーム活動に比較的大きい影響力を持つメンバーが関与した時、および新しくメンバーが加わった時に騒乱期が起こっていた。さらに、実行期においても騒乱期の発生が認められた。

第三に、組織成熟度レベルが異なれば、その中で発生した騒乱期におけるコンフリクトの解決方法は異なっていた。本研究で観察された第 1 回目の騒乱期では、まだ組織成熟度は CMMI の Level-1 であり、メンバーがコンフリクトに困惑してその解決方法として、一時的に回避する方法をとった。第 2 回目のコンフリクトは、組織成熟度は CMMI の Level-2 であり、最初は強制や指示的態度であったが、次第に妥協や和解の方法で、対応した。第 3 回目のコンフリクトの発生時は、組織成熟度は CMMI の Level-3 であり、メンバーは既にチームの決まりを持っており、コンフリクトをさほど深刻さを持たずコンフリクトを解決した。

第四に、チームの形成期には、知識を基にした Top-down 型リーダーシップ・スタイルが確認できた。次に、チームの規範期、実行期には、個々人の意見尊重を基にした Consensus 型リーダーシップ・スタイルが確認できた。ただし、実行期でも飛躍的に成長する時期では、知識を基にした Top-down 型リーダーシップ・スタイルが確認できた。

5) 研究の結論

本研究の結果から提示できる結論は、以下のとおりである。

1. 医療チームは、段階的に成熟していく過程を示した。
2. 医療チームの成熟過程は、CMMI の組織成熟度で測定することができた。
3. 観察した医療チームでは、CMMI Level-4 までの成熟過程を観察できた。
4. 医療チームのメンバー構成が変化すると、タックマン・モデルでいう、チーム形成段階に変化が現れた。
5. チーム構成に変化があった際のチーム形成段階の変化の様子は、その時点での CMMI の組織の成熟度により、異なった。
6. チーム形成段階により、それぞれ異なったリーダーシップ・スタイルが確認できた。